

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 竹之内 篤
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

『思考の三原則』

利根教育事務所長 竹之内 篤

新型コロナウイルス感染者は、未だに世界規模で増加してきており、感染防止に向けて、予断を許さない状況が続いています。感染リスクを低減させるためには、人と人との接触を極力避けることが求められる中、折しも、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を掲げた新学習指導要領が、今年度から小学校において完全実施されました。各学校・園においては、新しい生活様式の中で、新学習指導要領や教育要領の趣旨に沿って、授業改善等を推進しなければならない状況にあります。

また、長期にわたる臨時休業を余儀なくされた状況を受け、国における GIGA スクール構想が加速され、管内市町村においても一人一台学習端末の整備が進められており、今後は、端末の有効活用に向けた研究や教員の研修等が重要になってきます。さらに、子どもたちの安全・安心の確保のために、学校における危機管理体制の再整備などと併せて、学校における働き方改革の推進も重要な課題となっています。

このような想定外とも言える状況に直面し、様々な課題と向き合っていく上では、「思考の三原則」（安岡正篤氏）が大切であると改めて感じています。「思考の三原則」とは、難しい課題に直面したときに、①目先にとらわれず、長期的に見ること、②物事の一面だけを見ないで、できるだけ多面的・全面的に観察すること、③枝葉末節にこだわることなく、根本的に考察することが大切である、という考え方です。

私は、先輩から、この「思考の三原則」を教えていただきましたが、中でも、「何事に対しても、『根っ子』（根本的）を大事にしなさい。」という先輩の言葉が強く心に残っています。今でも課題等と対峙するときには、この三原則を大切にしながら、課題等の『根っ子』を念頭に置いて、目的と手段が混同しないように気を付けています。言うまでもなく、学校教育・生涯学習の『根っ子』は、「子どもたちのため」、「地域住民の方々のため」であり、それを実現していく上では、教職員の皆さんの働きやすい環境づくりが欠かせません。

二学期のスタートに当たり、利根教育事務所として、課題等の解決策を「長期的」「多面的」「根本的」に考えながら、コロナ禍による未曾有の危機を乗り越えていけるよう、職員一同、一致団結して取り組んでいく所存ですので、引き続き、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

学校教育係 「深い学び」の鍵を握るのは!? ～各教科等における「見方・考え方」～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるに当たり、「深い学び」につなげるための鍵となるのが、各教科等における「見方・考え方」です。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものにし、社会や世界にどのように関わるかの視座^(注1)を形成したりするために重要です。そこで、「深い学び」を実現させるために働かせる「見方・考え方」について考えていきます。

(注1)「視座」とは、物事を見る姿勢や立場のこと

今回の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。日々、取り組んでいく中で、何か不安なことはありますか？

はい。「主体的な学び」や「対話的な学び」は、イメージできるのに対して、「深い学び」をイメージすることが難しいのですが…。どのように考えたらよいのでしょうか？



学力向上CO

確かにそのとおりですね。授業改善において、「深い学び」の視点は極めて重要とされています。それは、深まりを欠くと表面的な活動に陥ってしまうという懸念があるからです。そこで、「深い学び」につなげるための鍵となるのが、各教科等における「見方・考え方」なのです。今回は、「深い学び」を実現させるために、どんなことを大切にしていってよいのか、一緒に考えていきましょう。



授業者

【ポイント1】各教科等における「見方・考え方」について明確にしておくこと



各教科等における「見方・考え方」は、その教科ならではの、「物事を捉える視点や考え方」のことです。ですから、授業を構想する際には、指導する教科における「見方・考え方」について、明確にしておく必要があります。以下に、小学校の例を一部示します。（※各教科等学習指導要領解説参照）

- 【国語】 学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして（見方）、言葉への自覚を高めること（考え方）。
 - 【社会】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え（見方）、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（考え方）。
 - 【算数】 事象を、数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え（見方）、根拠を基に筋道を立てて、統合的・発展的に考えること（考え方）。
- ~~~~~（以下省略）~~~~~

なるほど、「見方・考え方」は、各教科ごとに定義されているんですね。



そうです。各教科等における「見方・考え方」は、その教科を学ぶ意義や本質につながるものです。子どもたちが、問題解決の過程で、これを自在に働かせるようにすることで、「深い学び」を実現させていくことにつながります。



授業者

【ポイント2】「目指す資質・能力」と「見方・考え方」とは別の概念として整理して捉えていくこと



それでは、実際の授業を例にして、「見方・考え方」を働かせながら学習を進めている様子を確認してみましょう。

（※「はばたく群馬の指導プランⅡ」P35 第5学年「図形の角の大きさ」参照）

①授業を構想する際には、それぞれを整理して明確に捉える

【目指す資質・能力】
四角形の内角の和の求め方を図や式を使って説明することができる。

【本時に働かせたい「数学的な見方・考え方」】
四角形について、三角形を組み合わせてできていることに注目して捉え、三角形の内角の和を基にして筋道を立てて考えることができる。

②「見方・考え方」を働かせられるような発問等を工夫する

- 1 学習を把握し、めあてを設定する 2 解決の見通しをもつ

（問題）
四角形の4つの角の和を調べてみよう



【数学的な見方・考え方を働かせた児童のつぶやき】

なるほど。教師の意図的な問いかけによって、子どもたちが「見方・考え方」を働かせ、解決の見通しをもてるようになってきていることが分かります。



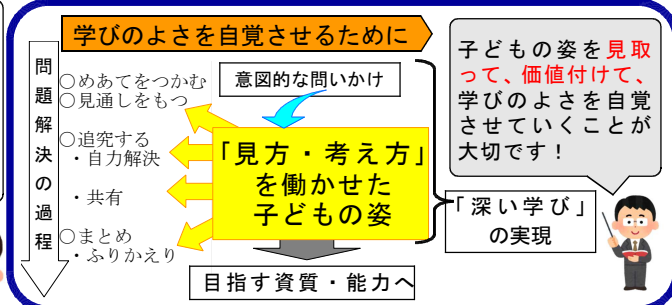
そうですね。子どもたちから「見方・考え方」を働かせた意見を引き出すことで、「深い学び」の実現につながります。問題解決のそれぞれの過程で、「見方・考え方」を引き出したり、鍛えたりできるように支援を工夫することこそが、教師の専門性が発揮される場所なのです。「どの場面で、どのように問いかけるか」が授業改善の大きなポイントになります！

【ポイント3】「見方・考え方」を働かせながら学習することのよさを自覚させていくこと



教師は、あらかじめ、「見方・考え方」を働かせた子どもの姿をイメージし、授業では、その姿を見取り、価値付けることで、子どもたちにその学びのよさを自覚させていくことができます。その積み重ねで、子どもたちは「見方・考え方」を働かせながら問題解決しようとする意識がもてるようになっていきます。

今日は、「見方・考え方」を働かせて、「深い学び」につなげるための3つのポイントがよく分かりました。明日の授業から、意識して取り組んでみたいと思います！



「深い学び」は、「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学ぶ意義や本質に触れながら、目指す資質・能力を身に付けていくことで実現されていきます。「主体的な学び」、「対話的な学び」と併せて「深い学び」の実現に向けた授業改善をお願いします。